

令和4年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 趣旨	2
2 点検・評価の対象	2
3 点検・評価の方法	2
4 外部評価委員の意見	3～11
5 自己点検・評価総括表	12
6 令和4年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート	13～21

はじめに

本町では、平成29年に第二期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

第二期の期間中において、本町では、町内全小中学校のコミュニティ・スクール化、長期休業日の弾力的な設定、土曜授業の実施、小学校英語専科の配置、各校に通級指導教室の開設、小中学校の全教室にエアコンの設置、トイレの洋式化、全児童生徒へのタブレットの貸与、サン・ビレッジさざ屋内外テニスコートの人工芝の張り替え、町民体育館の改修等を行ってきました。

また、教育振興基本計画の達成度を数値的に検証する「佐々町教育員会自己点検・評価」においても、ほぼ満足できる成果をあげることができました。

本町の教育振興基本計画は、その達成状況を「活動指標」と「成果指標」によって年度ごとにチェックし、佐々町の教育の全体の評価を行い、PDCAのサイクルにより改善することに特徴があります。各学校においても、この評価を自己評価として、学校関係者評価委員会を兼ねる学校運営協議会によって学校の自己評価を評価し、学校のPDCAのサイクルにより改善を行うことにも特徴があります。

本計画においては、これらの、第二期佐々町教育振興基本計画の特徴を継承しながら、令和3年3月に策定された、第7次佐々町総合計画(令和3年度～令和12年度)における教育分野の個別計画として、その関連性を明確にすることにしました。

さらに、今後の Society5.0 社会の実現に向けた変化が加速することも予想される中で、国においては、予測困難で変化の激しい社会の中を生き抜いていく人材を育成するために、小中学校の新学習指導要領が平成29年3月31日に公示され、「育成を目指す資質・能力の明確化」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進等の、抜本的な改善が行われました。

加えて、国連では、平成27年9月に、令和12年を期限とする、17の貧困や飢餓の根絶・福祉の推進などの開発目標「SDGs」を掲げ、国際社会全体の課題として取組を進めています。SDGs の理念(「誰一人取り残さない」社会の実現)の達成のためには、「教育」によるところが大きく、本町教育においてもSDGs の原動力となる質の高い「教育」提供を推進していかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症予防のための、学校の全国一斉休業や感染症予防のための新たな対応等の、今までにない「健康(感染症)と教育」という課題も生じました。

これらの、多くの課題を克服しながら、一人一人がその生涯を通じて活躍することができる社会の実現に向けて教育の担う役割は大きくなっています。

令和3年度に策定した第三期佐々町教育振興基本計画は、現行計画の成果と課題の検証のうえに、教育を取り巻く趨勢や国の教育改革の動向等を踏まえ、取り組むべき施策を明らかにすることにより、本町教育の一層の充実に努めるために策定したものです。こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、令和4年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

令和6年2月
佐々町教育委員会
教育長 黒川 雅 孝

1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしております。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は令和4年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

3 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、本計画の策定にあたっては、第7次佐々町総合計画(令和3年度～令和12年度)における教育分野の個別計画として、その関連性を明確しつつ

- ① 文章表現は要点を記載する。
- ② 「活動指標」に具体的な取り組みを記載して、取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③ 「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにする。

ことにしました。

なお、「成果指標」は、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度の数値によることといたしました。

本計画は、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

評価については、下記のように行います。

【活動指標】

- ・4段階評価とする。
 - ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
 - ・評価 3.20 以上を「A」、3.19～2.80 を「B」、2.79～2.40 を「C」、2.39 以下を「D」とする。
- なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

氏名	所属等	任期
百津 真人	元公立中学校校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日
十時 啓介	元公立小学校校長	平成5年12月1日～令和7年3月31日

4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

(百津委員)

はじめに

私たちの生活様式は、コロナ禍を経て、この数年で大きな変容を遂げている。ビジネスの世界では、インターネットを介した Web 会議や情報共有は当たり前のものとなり、在宅勤務やワーケーションを恒常的に導入する企業も出現している。

こうした変容はビジネスだけのものではない。教育に目を向けると児童生徒1人1台の情報端末の整備などを行う GIGA スクール構想が推進されたことが追い風となり、特に小中学校における教育 ICT については、環境整備と利活用の両面において大きな変化が見て取れる。

このように家庭や学校をはじめ、児童・生徒を取り巻く環境は時代とともに変化し続けている。これらの変化に合わせ、学校での指導方法においても見直しや改善を行うことが重要である。

2021年1月、中央教育審議会は、2020年代を通して実現を目指す『令和の日本型学校教育』のあり方を「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びの実現」「協働的な学びの実現」と定義した。

これらの実現には、環境設備を整えることはもちろん、教師が高い資質能力を身に付けていることが重要である。

特に、次代を担う人間を育むための義務教育に責任を持つ地方行政である教育委員会の任務は、非常に重要である。

ここでは、令和4年度の佐々町教育委員会の取り組みについて「佐々町教育基本計画」(第三期:令和4年度～令和8年度)をもとに「令和4年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告」の9項目から、今後の期待を込めて評価させていただく。

1 「ふるさと教育の充実」について

「ふるさと教育」は、人間としてのよりよい生き方を求めて文部科学省が昭和61年度から取り組んできた「心の教育」の充実・発展を目指したものであり、平成5年度より学校教育共通実践課題として推進してきているものである。

主体的で自律ある学びをするためには、ただ学習を一方向的に与えるのではなく、子どもたち自身が「学び」について主体的に考える必要があり、場としての「地域」に愛着と誇りを持つために、地域をより知りたい、良くしたいと考えること、時間軸として自分の将来について考えそのために「なぜ学ぶか」というこの二つのことが大切である。

これらを達成するために佐々町においては、コミュニティ・スクール等を通じて地域と連携し「ふるさと教育」を進められており、新たに令和4年度からの基本計画の中の行動指針に、「ふるさと教育の充実」を大項目として新しく掲げられたことを高く評価する。

各項目は「⑤グローバル化に対応した教育」のNo.9「県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合」が「D」評価になっていることを除き、すべての評価が「A」評価となっている。

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日付けで、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律上の5類感染症に移行し、これまで3年余に及んだ感染症との戦いに一つの節目を迎えることとなるが、まだ感染渦の中にあつた4年度において、様々な制約の中で、工夫を凝らしながら、地域人材の確保、講演会の開催、体験活動の実施など、感染拡大の防止と学校教育活動の継続の両立に取り組んで一定の成果を上げた教育委員会・学校関係者の努力を高く評価したい。

「D」評価になっているNo.9「県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合」においては、「2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進」の項において「学力」とともに述べる。

2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

学力は人格の一部であり、学力形成は即ち人格形成である。特に義務教育は、学力の保障に徹することが必要であり、学力は子どもにとってライフライン(命綱)である。

令和4年度に実施された全国学力・学習状況調査、県学力調査、町学力調査の結果において、小学校は平均を上回ったが、小中学校共にまだ厳しい状況が続いている。学力向上推進は本町にとって極めて重要な課題の一つである。

その対策として、3校の公開授業の開催、タブレットを活用した授業の実施、3校共同研究による相互交流授業・研究の実施など積極的な取り組みを評価したい。

特に、Society5.0 時代を生きる児童・生徒にとって、令和時代のスタンダードな学校像として、ICT環境整備が実現されたなか、児童生徒一人一台コンピュータを実現することで、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことが必要である。

その実現のために、技術面のサポートを行うICT支援員を手厚く配置し、特にICT活用に経験が浅い(教員としての経験ではない)教員に対して、現在提供している授業が、ICTのベストミックスとして活用できているかなど、授業のなかでの有効な利活用など、実践的な研修会の実施に期待したい。

さらに、個々に応じた最適なコンテンツの提供が行えるよう、教育委員会、学校が密に連携し取り組まれることを期待したい。

本町の課題である英語学習においては、教育委員会の「小学校英語から中学校英語へのスムーズな移行が望まれ、小中の授業のつなぎ方を研究する必要がある」という示唆に富んだ所見がある。小学校に「英語専科」を配置するなどの取組を高く評価するが、それが小中間の「スムーズなつなぎ」になっているかは少々疑問である。例えば、2小学校、1中学校という佐々町特徴を生かし、佐々町の学校を大きく一つのまとまりと考え、英語の免許を持つ中学校の教諭が、通年で各小学校の英語の授業を担当し、次年度は児童と共に中学校へ移動するなどの対策で、「つなぎ」を行なって行くのも一つの方法として研究する必要がある。またそれを「上位免許法」の考え方に立てば、他教科でも可能である。

学力向上は一朝一夕には結果が出ないことは分かっている。しかし、だからといって改善プランや具体的手立てを、教師が安易な気持ちで受け止めていたのでは、事態は絶対に改善しない。まずは教師自身が、それらの学力向上の取組に本気になることである。子どもにとって必要な学習指導を本気で行うことである。

教師自らが個人の研究課題、研修課題を持ち、学校全体の教育課題と関連付け、実践を通して検証していこうとする熱意や創意が求められていることはいうまでもない。ただし、教師はすでに何らかのユニークな指導力を持っているものである。教師自らがすでに持っているこれらの多彩な指導力をエンパワーし、内発的に自己変革を遂げながら個の力量を高めることが重要である。

そのためには、教師は自らの専門性を高めるために自己学習する機会を持たなければならない。自らの専門性や指導力を高めることは、際限のない作業であるが、それぞれの教師の持つ個別的な指導力を認めつつ、自らの指導力を向上するために学び合い、育ち合う機会を学校内外でどれだけ豊かにつくるかということが問われている。

保護者や住民の学校教育に対する期待や願いは大きい。教師の指導があってはじめて子どもは向上するという思いから、教育委員会においてはこれまで以上に「教職員資質向上事業」の充実に期待したい。

3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進

コロナ感染渦での様々な制約の中で、あいさつ運動、人権教育の推進、青少年劇場の開催、芸術・文化の鑑賞など、各学校において独自の工夫を凝らしながら一定の成果を上げている。

厳しい状況の中で、感染対策に万全を期し積極的に取り組まれた教育委員会・学校関係者の姿勢を高く評価したい。

読書活動は、子どもの心を豊かにし、生きるための力を身に付けさせるとともに、学力の基盤を成すものであるため、家庭・地域・学校における読書関係者が相互に連携し子どもの読書活動を推進するとともに、蔵書の充実と共に環境整備において、例えば、隅っこが好きな児童生徒の特性を利用した環境整備や、図書館へ児童生徒を誘う入り口の工夫などの読書環境を整備することにより、子どもが自発的に読書に親しむよう促す必要がある。

図書室のリニューアルなどの取組で小学校は目標値を達成しているが、「③読書活動推進」におけるNo.30「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数」の中学生の評価が「C」であった。

この状況は佐々町だけの特徴ではなく、全国的に、テレビ、ビデオ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには、幼児期からの読書習慣の未形成などにより、学年が上がるほど読書率の低下している子どもの「読書離れ」が指摘されている。

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。保護者をはじめ、子どもたちにとって身近な町内の大人による本の紹介やビブリオバトルの開催など、地域や保護者等との連携した継続した取り組みを期待する。

4 信頼される学校づくりの推進

校長の PDCA サイクルに基づく学校経営、児童生徒の状況、地域との連携、学校が抱え

ている問題点等の把握、指導も的確に行われており、全ての項目が「A」であり、教育委員会及び各学校が生徒指導に対して積極的な取り組みを行っていることを高く評価する。さらに生徒指導の根幹をなす「自己肯定感」をさらに高める指導に期待したい。

また、数年間のコロナ禍で子どもたちは、さまざまなストレスにさらされてきた。令和5年5月に5類感染症に移行したことにより、過度な対策や過度な楽観といった極論に走らず、TPO(時・場所・場合)や流行状況などに応じて、子どもの心と体の健康や、発達と発育の観点を考慮し、バランスの取れた接し方の視点に重点を置いた指導に心がけてほしい。

5 学校・家庭・地域の連携の推進

教育は、学校を中核に家庭、地域の三者が協働して進めてくものである。コロナ感染渦での様々な制約の中であったが、「人は人を浴びて人になる」という言葉のように、学校支援ボランティア、図書ボランティアをはじめ多くの地域人材を活用した各学校の姿勢を評価する。

さらに今後は、保護者や地域住民が学校や教育委員会に意向を伝えるとともに、学校からも保護者や地域住民に意向を伝えるなど、保護者・地域住民と学校・教育委員会が相互に交流して教育活動をより強固に進めていくことが求められている。

その目標を具現化する手段として、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)及び地域学校協働本部を活用するなど、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていくことを期待する。

6 生涯学習機会の内容の充実と支援

生涯学習は一人でもできるが、人とつながり、社会とつながる力の低下が指摘される今日、個人での学習以上に、コミュニティに入り、一緒に学ぶことが重要になっている。たとえば図書館での読書活動ボランティア育成・支援やワークショップ等の体験的・集団的学習活動の企画・実施・援助等、グループ学習や仲間づくりに寄与するという面での役割も意識しながら事業を展開してほしい。

7 生涯スポーツの推進

1,700人の参加があったジョギングフェスティバルをはじめ各種スポーツイベントにおいては、実施に向けて感染対策をはじめとする様々な取り組みを高く評価したい。

No.74「総合型地域スポーツクラブ会員数」の登録者が減少し「D」評価になっている。コロナが5類感染症に移行した今年度以降は、昨年度以上にスポーツ活動が活気を取り戻すと予測する。クラブの再編成や内容の再考等に期待する。

8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進

小学校においては「佐々町博士」の積極的な活用や、神社に出向き実物に触れるなどの郷土学習が的確になされている。大項目1「ふるさと教育の充実」の項でも述べたがふるさとを学ぶことは、「人間としてのよりよい生き方を求める」ためであり、学校教育のみならず、生涯学習の両においても重要なものである。

社会教育講座における「郷土史学習」と小中学校における「ふるさと学習」をリンクする(講師あるいは受講者が学校で講師となったり、小中学校で学習したことを講座で発表したり)などの取組にも期待したい。

9 地域文化の振興と創造

新型コロナウイルス感染拡大に伴う、学校行事等の縮小・中止もあったが、感染予防を的確に行い「学びを止めない」という教育委員会及び各小中学校の姿勢を高く評価したい。

佐々町文化の発信の中核を担う「町民文化祭」においては、No.78「町民文化祭の参加者数」が「C」評価であった。これは、文化会館の利用者数も増加しており、コロナによる参加見送りなどの影響も考えられる。今後さらに町内の文化団体(サークル)等への支援などに期待したい。

おわりに

評価をするにあたり、教育委員との意見交換の場を設定していただくとともに、「佐々町教育基本計画」(第三期:令和4年度～令和8年度)と「令和4年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告」及びホームページに掲載されていた令和4年度定例教育委員会会議録を読ませていただいた。また教育委員会事務局には、社会科副読本「佐々町博士」などの資料の提示や疑問に感じたことについて丁寧な回答をいただいたことに感謝したい。おかげで、どうにか評価をまとめることができた。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正後においても、教育委員の職務は、「教育委員会の重要事項の意思決定を行う責任者であるという意識を持ち、教育委員会における審議を活性化するとともに、教育長及び教育委員会事務局のチェックを行うという役割を従来以上に果たすことが期待される」とある。

会議録を読み意見交換会に参加して感じたことは、各委員は、異なる立場で、それぞれの知見や収集した情報等をもとに広い視点から、任務に忠実に義務を果たしていることが伺えた。

令和4年度も前年度と同様にコロナ禍に翻弄された1年であった。感染防止対策を図るために、思うように教育活動が出来なかった部分が多かったものと思われる。

そのような状況にありながらも、コロナ対策のための教科指導の充実、ICT を活用した新たな教育方法の導入、研修機会の確保、健康安全教育の徹底、感染者の人権に配慮した関係の確保など、多領域にまたがって精力的に進めて来られたことを高く評価する。

今後も学校に寄り添い、教育委員会、学校、家庭、地域が一体となって知恵を出し合い、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える教育システムの構築に期待する。

教育は全ての基本である。複雑化多様化する社会のなかで、佐々町で育てて良かった。佐々町で子育てできて良かった。佐々町で教員ができて良かった(私も佐々町で7年勤務させていただき、佐々町に教員として育てていただいたと感謝している)。このように、町民や教員が、心から思えるように、今後さらに、あらゆる年代、立場の方との意見交換を通じて課題解決に取り組んでいただくことを期待する。

(十時委員)

佐々町では令和4年度から教育振興基本計画の第3期分が策定され、令和8年度までの5年間で取り組む努力目標及び主要施策が示された。この第3期分は令和3年度から10年間を見通した第7次佐々町総合計画の教育分野における前半部分に当たり、この成果によって後半部分の方向が決まってくる重要な取り組みになる。令和4年度はこのスタート年度であったが、令和2年度から広がった新型コロナウイルス感染症が収まっておらず、順

調に進んだとは言い難いとする。それでも教育委員会は町内各学校の児童・生徒の力量を上げることと、町民の豊かな生活を支えるために最大限の努力をしてきた。それは詳細な活動指標と成果指標に加え、町内各校や関連団体の所見を見ても明らかである。その努力に対し敬意を表したい。

1 佐々町教育委員会自己点検・評価シートについて

令和4年度は16の評価項目の中で該当事案がなかったものを除く9項目で評価がなされており、そのすべてがA評価であった。

- (1)「教育行政の運営に関する一般方針を決定すること」については、第3期教育振興基本計画を確認したうえで佐々町学校評価ガイドラインの策定が行われており、常に改定を意識した取り組みがなされている。
- (5)「教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること」については、給食費の物価高騰分の補助を考慮するなど社会の動きを見た判断がなされている。また、児童・生徒が安心して学べる環境づくりや町民の快適利用のための施設工事についても現場の要請に応じようとする姿勢がよく表れている。
- (6)「教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと」については児童・生徒の活動意欲を高めるような施策を講じるための視点や児童・生徒が安心して学校生活を送れるような視点を取り入れた規則や要綱等が示されている。これらの制定による今後の成果を期待したい。
- (7)「教科用図書の採択に関する基本方針を定めること」については、令和2年度から導入された2次元コードを含む教科用図書が学校現場で活用しやすいものになっているかという点を重視して採択に臨まれたと思うが、それについては学校現場からの意見を聞いたり直接授業を参観したりして採択結果の評価をしていただきたい。
- (13)「校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること」については、校長、教頭、各主任から町雇用の支援員に至るまで多くの研修が組まれている。児童・生徒の成長は保護者の安心と信頼にもつながるので、ぜひ実りある研修を実施して欲しい。
- (16)「文化財の指定に関すること」については、令和3年度の専門家による調査段階から県文化財指定について申請が出される段階に進んでいる。

2 佐々町教育委員会 自己点検・評価報告書について

大項目1「ふるさと教育の充実」

大項目の最初に挙げられたものだが、令和3年度までの大項目1と大項目2のそれぞれに中項目として設定されていた項目を再編して大項目として立ち上げてある。ここにある中項目を見ると、佐々町の児童・生徒の力を地域の人材や資源を活用して伸ばしていこうとする意図が明確に見える。

夢やあこがれがある、夢の実現に向けて行動している児童・生徒の割合が小学校の段階で高水準にあるものが中学校ではさらに高くなっていることが、この取り組みの成果となって表れているものとする。(成果指標5・6)

英語活動については、小学校では勉強は大切だと思っているが、中学校の県学力調査の結果が思わしくないため、小学校から中学校へどのように学習意欲をつなげ力をつけさせるかが課題になると思う。(成果指標7・8)

大項目 2「一人一人の可能性を伸ばす教育の推進」

令和 3 年度まで 8 つあった中項目が、今回は 5 項目の設定となった。その中にある活動指標は全て A 評価であるが、体験入学や学校間交流がまだコロナ禍でできなかったことは残念だった。

- ① 確かな学力の育成については、活動指標について教育委員会指導の内容が 17 項目示されており、大項目 1「ふるさと教育の充実」にある 11 項目の内容も含めて力を入れていることがよくわかる。(学校等指標の内容も実施や活用など積極的な関わりを表す言葉が多く見られる)ただ、学校等指導の内容において、学習規律の徹底の達成度が令和 3 年度分から下がっているのが気になる。コロナ禍の影響は受けにくい部分と思うので、対策が求められる。(活動指標 28 学校等指標の内容)
- ③ GIGA スクール構想の実現については ICT 教育が推し進められていることもあり、教育委員会にとって力の入れどころになっていると思う。インターネットへの接続環境も強化していかなければ各学校とも快適な授業が展開できないので「パソコンが固まる」状況が生まれないよう努めていただきたい。また、②「学校間の連携の推進」の中でも情報交換や公開授業等をとおして教員の指導力向上を図っていただきたい。
- ④ 幼児教育の推進については、小学校入学後の間もない時期に不適應を起こさないよう事前の対策が必要と考える。町内公立の園だけでなく町外の園や私立の園も含めて、できるだけ広範囲からの情報収集・情報交換がなされ学級編制等に活かされることを期待したい。
- ⑤ 特別支援教育の推進については、きめ細かな支援が以前より強化されているのですべてが A 評価であることはうなずける。特に就学時健康診断での実態把握は入学前の段階から対応を考えることができるので、重視していただきたい。

大項目 3「豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進」

中項目が 7 つ設定されており、活動指標は全て A 評価であった。

「佐々子ゆめプラン」は、小学 1 年生から中学 3 年生までの成長がその先にある人生を自ら切り開いていける力に結びつくことをイメージして作成されたが、現状に合うよう改正されているのでこれから成果として表れることを期待したい。そのためにも学校・家庭からの情報収集は欠かせないと思う。

学校図書館の児童・生徒一人当たりの貸出冊数(成果指標)は、小学校に対し中学校が低くなっている。中学校では一冊を読み終えるまで時間がかかるので冊数が減るのは理解できるが、コロナ禍前の中学校の貸出冊数はもっと多かったという話なので、禍中で部活動等も制限されている中、なぜ低くなったのか考えなければならないと思う。読みの力は学力向上にも影響するので、今後、少しずつでも数値が伸びていくことを期待したい。小学校の場合は絵本や短時間で読み終える図書により冊数が伸びていると判断するが、文字の多い図書がどれくらい含まれているのか、その傾向もつかんでおくことが必要と考える。(成果指標 30)また、町立図書館と各学校との連携も取られていると思うが、児童・生徒の図書への関心を高めるため、より一層の連携を期待したい。

体力向上の取組の推進については、成果指標において体育の授業が楽しいという児童・生徒の割合が高いことに安心した。(成果指標 34・35)教育委員会の支援・指導と各校の指導の工夫の賜物と考える。ただ、各校からの所見に体力向上への記述がなかったのは残念だった。

食育の推進については、成果指標の中に食物アレルギー対策に関する指標があってもよかつたのではないかと思った。

大項目4「信頼される学校づくりの推進」

中項目に「子どもの安全確保対策の推進」が加わって4項目になった。活動指標は全て A 評価であるが、いじめ対策、不登校対策、学校評価への対応といった重要な内容が多いだけに、教育委員会と各学校が密に連携していかなければならない。成果指標を見ると、いじめの解消率が100%となっており、各学校とも早い段階でのいじめ発見・対策ができています。(成果指標40) 教員のいじめを感知するレベルが高い表れで、これを今後も維持できる指導・支援を教育委員会にはお願いしたい。対して不登校児童・生徒の割合は増加傾向にある。コロナ禍による影響で学校生活が不規則になったことも要因であろうが、「学校に行く必要性」を感じない児童・生徒が増えているような印象を個人的には持っている。(例えば、学校の勉強よりも SNS でのコミュニケーションが有意義であるという意識)

学校評価は保護者を含め、外部がどのような思いを持って学校を見ているかを知ることができる重要な手段である。各校それぞれ指摘されたことがあれば、必要に応じ教育委員会からも指導・支援を行っていただきたい。(成果指標52)

大項目5「学校・家庭・地域の連携の推進」

中項目として4つの項目が示されており、活動指標は全て A 評価であった。大学生の活用についてはコロナ禍でもあり、見送られたのは仕方ない。令和5年度以降の取り組みに期待したい。

図書活動推進については、図書ボランティアの方々への活動支援もあり良い状況が続いているが、継続あるいは強化していくにはさらに多くの人員が必要となるだろう。人員が固定化すると先細りにもつながるので、幅広く協力を求める対策を検討されてもよいと思う。(成果指標58)

土曜学習については、コロナ禍が大きく影響したと考える。取り組みの楽しさを伝え、多くの児童・生徒が参加するようになることを期待したい。(成果指標59・60・61)

大項目6「生涯学習機会の内容の充実と支援」

中項目として4つの項目が示されており、活動指標は全て A 評価であった。成果指標を見ると、公民館活動参加者数(登録者数)が令和元年度よりも約80名減っており、この傾向が続くと公民館活動が低下してしまう可能性がある。所見にもあるとおり、可能なら参加しやすい時間帯の開催も検討してよいと思う。いずれの活動にしても、参加者に自由があり、参加者の固定化が活動の閉鎖性につながらないようにしていくことが大事と考える。

大項目7「生涯スポーツの推進」

ジョギングフェスティバルの参加者は、令和元年度よりも約100名減っているが、コロナ禍のことを考えるとよい数値ではないかと考える。ただ、走路の状況は点検が必要で、ランナーの安全確保には努めていただきたい。また、ランナーと運営関係車両が接触する事故も他の大会で発生しているので、交通事故には十分注意していただきたい。

所見に休部するクラブが増加とあるが、高齢化や人間関係、生活スタイルの変化など様々な要因があるのだろう。誰もが入部しやすく、継続しやすいクラブの雰囲気作りも大切だと思

う。

大項目8「芸術・文化を守り、育てる活動の推進」

小学校3・4年生向けの冊子「佐々子博士」は使い勝手がよいという意見だったので、改訂の際はより分かりやすい内容を目指していただきたい。昔使われていた農機具等は写真では大きさがわからないので、実物が残っていればぜひ見せたり触ったりさせたいと思う。文化財の保存については地域の方々による支援が必要なところなので、町報などを通じての啓発をお願いしたい。

大項目9「地域文化の振興と推進」

アルカス佐世保の芸術鑑賞体験教室に参加できるようになったことは喜ばしい。可能ならば清峰高校や佐々中学校の吹奏楽部やコーラスがいずれかの小学校に出向いて発表することで、児童の心にもあこがれが生まれるのではないかと思う。

町民文化祭の参加者については、所見にあるとおり若い人たちの新しい文化発表の場を設定するのも一案と思う。

令和4年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

令和4年4月から第3期佐々町教育振興基本計画(Plan)により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い(Do)」、「その結果がどうだったか(Check)」が明確になるようにしました。

なお、「成果指標」については、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度実績から行い、その改善に資することとしました。また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善(Action)につなげることとしました。なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3.20以上を「A」、3.19～2.80を「B」、2.79～2.40を「C」、2.39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

【総括表】

(活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	96	117	98.2%	98.2%
B	0	0	0.0%	
C	0	0	0.0%	
D	0	0	0.0%	
—	1	3	1.8%	
計	97	120	100.0%	

(成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	69	84.1%	87.8%
B	3	3.7%	
C	2	2.4%	
D	3	3.7%	
—	5	6.1%	
計	82	100.0%	

大項目	活動指標	成果指標
1 ふるさと教育の充実	A	A
2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
6 生涯学習機会の内容の充実と支援	A	A
7 生涯スポーツの推進	A	A
8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	A
9 地域文化の振興と創造	A	A

令和4年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
1 ふるさと教育の充実	① ふるさと教育の推進	1	「佐々町博士」の活用推進	4.0	A	「佐々町博士」の活用(小学校)	学校等	4.0	A	1	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】	データなし	100%	94	93.9%	A	独自アンケート
		2	「ふるさと長崎県」の活用推進	4.0	A	「ふるさと長崎県」の活用(中学校)	学校等	4.0	A	2	「佐々町博士」の活用度(小学校)	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	② 体験活動の推進	3	体験活動推進のための支援・指導	4.0	A	体験活動の充実	学校等	4.0	A	3	佐々町の地域資源を活用した体験活動の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		4	町の地域資源を活用した体験活動の推進	4.0	A	町の地域資源を活用した体験活動の実施	学校等	4.0	A								
	③ 地域人材の活用	5	地域人材活用のための支援・指導	4.0	A	地域人材活用の推進	学校等	4.0	A	4	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	99	99.0%	A	実態調査
	④ キャリア教育の推進	6	キャリア教育推進のための支援	4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」を学ぶ機会の設定	学校等	4.0	A	5	夢や憧れがある児童の割合(小学校)	92.0%	95%	83.6	88.0%	A	学校運営調査 5-2
		7				職場見学を含む学習の実施(小学校)	学校等	4.0	A	6	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)	74.0%	80%	90.6	113.3%	A	学校運営調査 5-2
		8				職場体験の実施(中学校)	学校等	4.0	A								
	⑤ グローバル化に対応した教育の推進	9	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A	7	外国の人と友人になったり、外国のことについてもっと知ってみたいと思っている小学生の割合	68.6%	70%	77.2	110.3%	A	全国学力調査25
		10	英語活動・英語の適切な実施への支援(小学校)	4.0	A	英語活動・英語の適切な実施(小学校)	学校等	4.0	A	8	英語の勉強は大切だと思っている中学生の割合	82.4%	85%	89.5	105.3%	A	全国学力調査 中55
		11	英語力向上のための取組の支援(中学校)	4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)	学校等	4.0	A	9	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	18.0%	60%	26.5	44.2%	D	県学力調査
	⑥ 環境教育の推進	12	環境教育推進のための支援・指導	4.0	A	環境学習の実施(教科の学習等を含む)	学校等	4.0	A	10	環境教育に関連する体験的な学習(活動)の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		13				自然とふれあう活動の実施	学校等	4.0	A								
	⑦ 平和教育の推進	14	平和教育推進のための支援・指導	4.0	A	平和学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	11	戦争の悲惨さや平和の尊厳について理解を深めている児童生徒の割合	98.0%	100%	97.4	97.4%	A	学校運営調査 5-4
		15				平和集会(8月9日)の実施	学校等	4.0	A								

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 95.6%	総合評価: A
所見						
所見(幼稚園)						
所見(佐々小)	ふるさと教育の充実に向け、地域人材をのべ186人活用することができた。また、11月には、土曜授業として、地域の団体やサークル活動の方々をお招きし、「わくわくのびのび佐々っ子集会」を行った。地域の方が講師となって、ワークショップ形式で活動を行い、交流を深めるとともに地域への感謝や愛情の気持ちを高めることができた。					
所見(口石小)	地域の婦人会の皆様には梅干しの漬け方、生ごみたい肥による野菜の栽培、ミシンの使い方の指導などを指導していただいている。また、地域の方には、田植え・稲刈り、老人会の皆様には昔遊びの指導でお世話になっている。ふるさとで活躍されている方々から学び、その生き様を感じることで、ふるさとを大切に、人の役に立ちたいという思いをもった児童が育ってきている。					
所見(佐々中)	主体的に学びに向かう態度の育成を図りながら、教育活動を展開することができた。さらに、キャリア教育推進のために中学校におけるキャリアパスポートを見直し、3年間の見直しをもち取り組めるようにした。昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら職場体験、修学旅行を実施することができた。					
所見(委員会)	佐々町博士は地域学習教材として非常に使いやすいと好評であり、ふるさと教育の充実に寄与している。キャリア教育については、地元出身者による講話が子どもたちの目標や夢に向けての励みとなっており、引き続き実施していきたい。					

大項目	中項目	活動指標							成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法	
2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 確かな学力の育成	16	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	12	3校研における公開授業の開催数(年間)	3回	3回以上	3.00	100.0%	A	実態調査	
		17	教材・教具の充実のための支援	4.0	A	教材・教具の充実	学校等	4.0	A	13	タブレットを活用した授業の実施	データなし	100%	100.00	100.0%	A	実態調査	
		18	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	4.0	A	14	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.00	100.0%	A	実態調査	
		19	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A	15	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.00	100.0%	A	実態調査	
		20	学校訪問による指導	4.0	A	学校訪問による指摘事項等の学校改善への反映	学校等	4.0	A	16	佐々町学力テスト全国平均比較(到達度)	0.96	1.00以上	1.01	101.0%	A	町学力調査	
		21	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	17	全国学力テスト全国平均比較(到達度)【総合戦略】	0.97	1.00以上	1.01	101.3%	A	全国学力調査	
		22	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		23	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		24	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		25	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		26	サポート・ティーチャー配置への支援	4.0	A	サポート・ティーチャーの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		27	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		28	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	4.0	A									
		29				家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A									
	30				授業規律の徹底	学校等	3.7	A										
	31				校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A										
	32	横断的・総合的な学習への支援	3.7	A	横断的・総合的な学習の効果的な実施	学校等	3.7	A										
	33	体験活動実施への支援	4.0	A	体験活動の効果的な実施	学校等	4.0	A										
	34	佐々町学力テスト実施・活用への支援	4.0	A	佐々町学力テスト結果向上への取組	学校等	4.0	A										
	35	全国学力テスト実施・活用への支援	4.0	A	全国学力テスト結果向上への取組	学校等	4.0	A										
	36	② 学校間の連携の推進	36	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	18	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数(年間)	3回	3回以上	3.0	100.0%	A	実態調査
	37		「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	19	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	-	-	-	実態調査	
	38					中学校体験入学の効果的な実施	学校等	-	-	20	両小学校交流の実施率	100%	100%を維持	-	-	-	実態調査	
	39					両小学校交流機会の設定	学校等	-	-									
	40	③ GIGAスクール構想の実現	40	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	21	パソコン等を使って、資料を探したり、自分の考えまとめたり、発表したりすることができる児童生徒の割合(小学校第5年生以上)	データなし	80%	80.9	101.1%	A	学校運営調査 5-5 (1)
	41		ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	22	パソコンを活用した学習に意欲的に取り組んでいる児童生徒の割合(小学校第5学年生以上)	データなし	90%	89.4	99.4%	A	学校運営調査 5-5 (2)	
	42		タブレットの配置	4.0	A	タブレットの効果的な活用	学校等	4.0	A									
	43		プログラミング教育実施のための支援	4.0	A	プログラミング教育の効果的な実施	学校等	4.0	A									
	44					情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A									
	45					情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A									
	46	④ 幼児教育の推進	46	幼児教育の適切な実施への支援・指導	4.0	A	幼児教育の適切な実施	学校等	4.0	A	23	小学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	-	実態調査
	47		就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A									
	48					小学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A									

⑤ 特別支援教育の推進	49	「合理的配慮」の提供	4.0	A	「合理的配慮」の提供	学校等	4.0	A	24	個別の教育支援計画の作成率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	50	特別支援教育支援員の配置	4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A	25	特別支援教育を理解している教員の割合	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	51	教育支援委員会の適切な開催	4.0	A	校内の相談体制の確立	学校等	4.0	A								
	52	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A								
	53	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催	4.0	A	特別支援教育に関わる研修会の開催	学校等	4.0	A								
	54	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A								
	55				子どもの情報の共有	学校等	4.0	A								
	56				個別の教育支援計画の作成	学校等	4.0	A								

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 100.2%	総合評価: A
所見						
所見(幼稚園)						
所見(佐々小)	教育支援員及びICT支援員等を適切に活用し、校内研修による授業改善(伝え合いを取り入れた学習)を軸に確実に成果が上がっている。また、ICTの効果的な活用により、県学力や全国学力学習状況調査、年度末の町学力調査の結果においても、確実に向上し、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後も今の指導方針を継続し、さらに学力向上を図り、児童の可能性を伸ばす教育の実現を目指す。また、特別支援教育の指導体制を強固なものにした結果、情緒的に不安定だった児童の多くが、落ち着いた学校生活を送っており、学校全体の雰囲気も大きく変わった。口石小との交流や幼稚園との交流が、コロナ拡大により実施できなかったのが、令和5年度は実施したい。					
所見(口石小)	「勉強名人を目指す」を合言葉に、進んで対話し、学ぶ楽しさを味わう授業を通して、「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という気持ちを育て、「わかった」「できるようになった」という好循環をつくることで、確かな学力を育成している。特に、特別支援教育には力を入れ、町の学習・生活支援員、特別支援教育支援員、学力向上支援員、心の教育相談員、SC、SSWの力を最大限活用し、よりきめ細やかな指導を継続している。					
所見(佐々中)	主体的・対話的で深い学びの実現のために、県教委や長崎大学附属中などの教育機関との連携を図りながら、授業改善や学力向上へ向けて研修を実施した。特別支援教育への理解を深めるために外部に講師を依頼し講演会を開催した。またICTを積極的に活用することで生徒の主体性を引き出す工夫なども行った。					
所見(委員会)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、授業時数の確保が大きな問題であったが、夏季休業期間の短縮や学校行事の精選、週時間割の工夫で対応し、教育課程は完全に実施できた。全国学力調査は、小学校が全国平均を上回ることができたが、中学校が下回った。長崎県学力調査も同様に、中学校が平均を下回ったが、数学では平均を上回った(中3)。また、町の学力調査においては小学校は全教科において全国平均レベルであったが、全体的に、その年度の学年の実態が学力へも影響していることが伺える。まずは学級経営を安定させ、落ち着いて学習ができる環境を作っていくことと、成果(数値の向上)として残る日頃の授業実践が必要である。また、中学校については、数学が平均を上回ったが、英語に課題が見られたことから小学校英語から中学校英語へのスムーズな移行が望まれ、小中の授業のつなぎ方を研究する必要がある。主体的、対話的な授業実践を重ねることにより、向上が期待できる。学校全体の校内研修を充実させ、安定した結果を残せる授業改善研修を継続する必要がある。</p> <p>ICT機器の活用については、タブレットを活用した授業支援や夏季休業等でのタブレットの持ち帰り学習を実施したほか、インターネット環境が整っていない児童生徒に対してルーターを無料で貸与し持ち帰り学習が実施できるようにするなど、児童生徒の「主体的・対話的」で「深い学び」に繋がる授業づくりの支援を行うことができた。ICT機器の活用にあたり、学校のインターネットの通信環境が悪いため、改善が必要である。</p> <p>3校共同研究の取組により授業改善や生活習慣等について共通認識で取り組むことができた。</p> <p>特別支援教育については、大きな課題であるが、支援員の配置が特別支援教育の充実に寄与している。</p>					

2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進	① 道徳教育の推進	57	道徳に関する研修会への参加促進	4.0	A	道徳に関する研修会への参加	学校等	4.0	A	26	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開率	100%	100%を維持	100.0	100%	A	実態調査
		58	佐々子3ヶ条の啓発	4.0	A	佐々子3ヶ条の啓発	学校等	4.0	A	27	「周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合(小学校第5学年以上)」	88.4%	90%	96.0	107%	A	学校運営調査 5-1
		59				道徳の授業の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		60				「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開	学校等	4.0	A								
		61				豊かな情操、規範意識、道徳心を育むための日常的な取組	学校等	4.0	A								
	② 人権教育の推進	62	人権教育推進のための支援・指導	4.0	A	人権学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	28	「周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合(小学校第5学年以上)」	88.4%	90%	96.0	106.7%	A	学校運営調査 5-1
		63	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	4.0	A	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	学校等	4.0	A	29	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		64				人権集会の実施	学校等	4.0	A								
		65				いじめへの適切な対応と早期の解消	学校等	4.0	A								
	③ 読書活動の推進	66	読書活動推進のための支援・指導	4.0	A	読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A	30	学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数(年間)	小学校 95冊	小学校 80冊	112.3	140.3%	A	実態調査
		67				「読み聞かせ」の実施(保育所等・小学校)	学校等	4.0	A			中学校 4冊	中学校 20冊	13.1	65.5%	C	
	④ 子どもたちの芸術・文化活動の推進	68	青少年劇場の開催	4.0	A	青少年劇場への参加と成果の活用	学校等	4.0	A	31	舞台芸術を生で鑑賞したことがある生徒の割合	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		69	伝統文化にふれる機会の充実のための支援・指導	4.0	A	芸術・文化の鑑賞機会の充実(教科等を含む)	学校等	4.0	A	32	芸術や文化に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		70				芸術・文化に関わる体験活動の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A								
	⑤ 体力向上の取組の推進	71	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	体力テスト全国平均比較(到達度)	0.957	1.00以上	1.0	95.7%	A	実態調査
		72	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合	88.0%	90%	89.9	99.9%	A	体力運動能力調査
		73				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合	90.1%	90%	92.1	102.3%	A	体力運動能力調査
		74				体力テスト結果の有効活用	学校等	4.0	A								
	⑥ 健康教育の推進	75	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	3.7	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	3.7	A	36	毎日同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合	88.1%	90%	83.3	92.6%	A	全国学力調査2
		76				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	毎日同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合	95.5%	98%	94.2	96.1%	A	全国学力調査3
⑦ 食育の推進	77	「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	3.7	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	3.7	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数(年間)	104回	50回	22.0	44.0%	-	実態調査	
	78	給食の充実に関する支援	4.0	A	給食指導の充実	学校等	4.0	A	39	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	97.0%	100%	93.9	93.9%	A	全国学力調査1	
	79				個別的な健康相談の実施	学校等	4.0	A									

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 3.9	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 96.2%	総合評価: A
所見(幼稚園)							
所見(佐々小)		学級経営を軸とした人間関係の構築と活性化を図るために、Q-Uテストの結果を詳細に分析し、生かしている。道徳教育については、教職員相互に日々の授業改善について研修や情報交換を行い、子どもの心に響く指導に努めている。また、人権教育、平和教育等においては、学習した内容が日常生活等において実践につながるよう、特別活動等を中心とした体験活動との横断的取組を行っている。図書館教育については、図書室のリニューアルや子どもの読書意欲を高める様々な活動により、読書活動に取り組もうとする意欲が高まり読書量が大幅に増えた。食に関する指導については、コロナ拡大で実施できなかったため、令和5年度は実施したい。					
所見(口石小)		「心をみがく一日一善(あいさつ、へんじ、くつならべ)」を学校経営に位置づけ、全校で実施している。具体的な取り組みの一つとして「あいさつ名人」をクラスごとに表彰したり、スリッパが並んでいる「スリッパ名人」のトイレを昼の放送で紹介したりすることで、意識の向上を図っている。また、がんばっている子どもたちをホームページや学期の振り返りの時に紹介している。意識してがんばっている子どもたちを正當に評価し、がんばりの見える化を図ることで、少しずつ「心をみがく一日一善」の輪が広がっている。最近、校門で自主的にあいさつ運動を行う子どもたちが増えてきて、朝からすがすがしいスタートをきることができている。					
所見(佐々中)		豊かな人間性、社会性を育む教育の推進のために、長崎っ子の心を見つめる教育週間における道徳授業の公開及び平和集会や人権集会等で生徒の規範意識や道徳心を高める取組を行った。いじめ問題については、早期発見・早期対応を徹底し、いじめを許さない態度・雰囲気醸成に取り組んだ。年度末時点では、解消率は100パーセントとなっているが、今後も定期的なアンケートの実施等を徹底する。また、読書活動の充実を通して、読解力の向上及び学力向上へ取り組んできた。貸し出し冊数も徐々に向上しているので、今後も図書司書と連携しながら取り組んでいきたい。					
所見(委員会)		「周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合」が向上したことについては、児童生徒の心情的な成長ととらえる。「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数(年間)」については、小学校は目標値を達成したが、中学校は昨年度よりは向上したものの目標値を達成することができず、さらなる改善が必要である。体力向上へ取組については、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により体育や中学校の部活動において児童生徒の運動の機会が制限されたが、各学校は個別的にできる体力向上に工夫しながら取り組み、全国体力・能力調査においては、全国平均には若干及ばなかったものの概ね達成できた。「食」に関する栄養教諭による指導回数については、新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおり実施できなかったため目標値を下回ってはいるが昨年度よりも指導を行うことができた。就寝・起床、朝食の摂取率は全体的には良好である。個別的に課題を持つ児童生徒もいるため、家庭と連携した個別指導が必要である。					

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該年度値	達成度	評価	調査方法
4 信頼される学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	80	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催	4.0	A	生活規律の適切な指導	学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100	100%	A	実態調査
		81	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合	1.20	県平均以下	2.93	99.4%	A	実態調査
		82	佐々子3ヶ条の啓発の支援	4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返しの指導	学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合	93.6%	95%	93.9	98.8%	A	全国学力調査13
		83	問題行動対応についての指導	4.0	A	問題行動への適切な対応	学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	83.1%	85%	82.1	96.6%	A	全国学力調査5
		84	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)	各校1人	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
		85	不登校支援対策委員会の開催	4.0	A	不登校対策の充実	学校等	3.7	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)	町内1人	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
		86	SC、SSW、心の教室相談員の配置	4.0	A	相談活動の充実	学校等	4.0	A	46	心の教室相談員の配置	各校に配置	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
	② 子どもの安全確保対策の推進	87	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	47	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		88	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	48	避難訓練の実施回数(年間)	小学校 3回	現状維持	3	100.0%	A	実態調査
		89	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A			中学校 2回		2			
		90				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	49	佐々子応援団見守り活動参加者数【総合戦略】	70人程度	現状維持	70.0	100.0%	A	実態調査
	④ 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	91	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	51	学校だより等による発信	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		92	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	4.0	A	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	学校等	4.0	A	52	学校評価の公表	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		93				学校評価結果の公表と適切な活用	学校等	4.0	A	53	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	99	99.0%	A	実態調査
		94				学校運営協議会の充実	学校等	4.0	A								
	⑤ 教職員の指導力の向上	95	研修会受講の支援・指導	4.0	A	研修会への積極的な参加	学校等	4.0	A	54	町教委主催の各主任研修会の開催数(年間)	12回	12回以上	12	100.0%	A	実態調査
		96	各主任研修会の開催	4.0	A	研修内容の適切な校内伝達や活用	学校等	4.0	A	55	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数(年間)	3回	3回以上	3	100.0%	A	実態調査
		97	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の充実	学校等	4.0	A								

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 99.6%	総合評価: A
所見(幼稚園)							
所見(佐々小)		いじめ対策や不登校対策については、早期発見・早期対応を心がけ、一人一人、一つ一つの事案に丁寧かつ迅速に対応するよう努めている。地域人材の活用については、各学年の教育課程に計画的に取り入れ、より一層活用・充実できようとしている。教職員の指導力については、外部講師の招聘や校内研・3校研の充実により、向上を図っている。学校運営協議会については、学校情報の公開を進め、意見等も取り入れながら学校運営に活用している。特に、学校運営に関わる職員組織や学級担任以外の活動、主な教育活動の計画等、可能な限り情報提供をしている。また、職員一人一人と顔が見えるつながりを構築するよう、様々な場面を意図的に設定している。					
所見(口石小)		いじめにつながる問題行動を見逃さないようにするために、いじめの事案が疑われる場合は、学年主任、管理職に迅速に報告、相談できる体制を徹底している。また、問題行動等の発生を未然に防止するため「成長を促す指導」に力を入れることで、自ら考えてよい行動をする児童が増えてきている。					
所見(佐々中)		信頼される学校づくりを推進するために、県教育委員会及び町教育委員会からの助言を受けながら教職員の資質・能力の向上をはじめ、問題行動の早期発見・即対応に努めてきた。また、情報発信の観点からは、学校評価の公表や学校だより、学級だより、進路だより、保険だより等の計画的な発行を行った。佐々町3校合同研究により小中の連携を深め、児童生徒を9年間のスパンで見守ることができている。					
所見(委員会)		生徒指導については、全体的には良好であるが、個別的に課題を持つ児童生徒がおり、関係機関等との連携を進めていきたい。いじめの解消率は100%と良好であるが、「見落とし」又は「見えない」いじめがないかを常に考えた指導を行っていく。不登校児童生徒の割合は県平均を上回った。新型コロナウイルス感染症の影響により学校が休業になるなど、規則正しい生活ができなかったことも間接的な要因と考えられる。QU検査を活用することにより予兆の段階での対応の強化や「ステップルーム」を活用していく必要がある。学校ボランティアの実人数は確保できたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりサポートティーチャー等の地域と連携した活動は昨年度に引き続き不十分であった。					

大項目	中項目	活動指標							成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法	
5 学校・家庭・地域の連携の推進	① 「地域とともにある学校づくり」の推進	98	学校運営協議会への支援	4.0	A	学校運営協議会の開催	学校等	4.0	A	56	学校運営協議会の開催回数(年間)	各校3回	各校3回以上	3	100.0%	A	実態調査	
		99	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	57	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	99	99.0%	A	実態調査	
		100	大学生活用への支援	—	—	大学生の活用	学校等	—	—									
		101				地域を学習材とした活動の実施	学校等	4.0	A									
	② 読書活動の充実	102	読書活動推進のための支援	4.0	A	読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A									
		103	図書ボランティア等の活動の支援	4.0	A	「読み聞かせ」の実施(小学校)	学校等	4.0	A	58	図書ボランティア等による「読み聞かせ」の実施回数(年間)(小学校)	データなし	30回(実施学級)	54	180.0%	A	実態調査	
	③ 地域教育を担う人材の育成	104	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	59	土曜学習参加児童数(年間)	548人	550人	419	76.2%	B	実態調査	
		105	土曜学習の開催	4.0	A					60	佐々っ子応援団見守り活動参加者数【総合戦略】	70人程度	現状維持	70.0	100.0%	A	実態調査	
		106	佐々っ子応援団活性化への取組	4.0	A													
	④ 青少年健全育成活動の支援	107	青少年健全育成活動への支援	4.0	A	佐々っ子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A									
		108	地域子ども教室の開催	4.0	A					61	地域子ども教室参加児童数	674人	700人	393	56.1%	D	実態調査	

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 101.9%	総合評価: A
所見						
所見(幼稚園)						
所見(佐々小)	昨年度に引き続き校長が登校時校区内安全指導を毎日実施している。年度末に、見守りボランティア等お世話になった方々を学校にお招きし、感謝の会を開催することができた。毎朝6年生が校門であいさつ運動を実施することが定着し、通行する方々に気持ちのよい挨拶ができるようになっている。学校全体で見ると、挨拶ができる子どもとできない子どもの二極化が進んでいるので、学校全体に広げていきたい。					
所見(口石小)	退職校長会や民生委員によるサポートティーチャー、婦人会や地域の方による学習支援、毎朝の見守り活動など、多岐に渡って地域との連携を強化することができている。また、令和4年度より、PTA会員の全員が参加しやすく、よりよいPTA活動にしていこうということでPTA会長が中心になり改革に着手し、PEACH(ピーチ)という愛称も決めて活動を開始した。児童の健やかな成長をみんなで支えようとする意識の高まりがとてもありがたい。					
所見(佐々中)	佐々っ子夢プランを各家庭に配布し、周知・徹底を図った。また、その実施状況についてアンケートを行い、PTAの協力もいただきながら集計、分析を行っている。佐々っ子応援団の協力のもと、朝の見守り活動を熱心にしていただいた。また、PTAとも連携してあいさつ運動実施するなど保護者と連携した活動を行った。					
所見(委員会)	新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した活動もあり、地域子ども教室参加児童数は目標を達成できなかったが、子どもたちの体験活動、「佐々っ子応援団」活動などの地域ボランティアの見守り活動により、学校・家庭・地域の連携の推進を図ることはできた。					

大項目	中項目	活動指標								成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法	
6 生涯学習 機会の内容 の充実と支援	② 各種講座を 通じた指導者・ ティーチャーの養 成	109	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	62	各種講座参加者数(年間)【総合戦略】	573人	600人	639	106.5%	A	実態調査	
		110	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	4.0	A	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	公民館	4.0	A	63	公民館活動参加者数(登録者数)	521人	550人	436	79.3%	B	実態調査	
		111	県立大学と連携した学習機会の充実	4.0	A	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	4.0	A	64	講座参加者の満足度	98.0%	95%以上	95.16	100.2%	A	実態調査	
										65	県立大学と連携した講座や活動の実施数(年間)	4回	4回	1	—	—	実態調査	
	③ 読書機会の 充実	112	図書館機能充実のための支援・指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	66	町立図書館1人あたりの貸出冊数(年間)【総合戦略】	10.4冊	現状以上	9.05	87.0%	A	実態調査	
113									67	読み聞かせへの参加世帯数(土・日の参加)(年間)	17世帯	現状以上	3.85	22.6%	D	実態調査		
	④ 人権教育の 推進	114	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	4.0	A	68	人権に関する講座の開催数(年間)	1回	現状以上	1	100.0%	A	実態調査	
	⑥ 地域交流セ ンターの利用促	115	ホームページ等による利用の広報	4.0	A					69	地域交流センターの利用者数(年間)	19,008人	20,000人	20,237	101.2%	A	実態調査	

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 82.6%	総合評価: A
所見	主催講座(明生大学・さざんか教室・あひる学級、特別講座、公民館主催講座)を開催し、受講者の受講満足度は高い。しかし、開催日時が平日昼間のため住民全てに学びの機会をと考えると休日夜間など開催日時を考 える必要がある。					
所見(公民館)						
所見(図書館)	書籍の整理については、定期的に蔵書整理を行い、選書については、分野別に計画どおりの選書ができた。貸出冊数については、昨年度よりも若干の減となったが、ほぼ現状維持することができた。読み聞かせの実施に ついては、コロナが収縮し、ほぼ予定どおり実施することができたが、参加者が少なく目標値を下回った。					
所見(委員会)	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、イベントを実施し、各種講座は実施することができた。県立大学との連携については今後も力を入れていきたい。読み聞かせについては、参加者増に向けた取り組みを検討し ていきたい。					

大項目	中項目	活動指標								成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法	
7 生涯ス ポーツの推進	① スポーツイ ベントの推進	116	スポーツイベントの開催	4.0	A	スポーツイベントの開催	関係団体	4.0	A	70	スポーツイベントの参加者数(年 間)【総合戦略】	908人	920人	1,300	141.3%	A	実態調査	
		117								71	ジョギングフェスティバルの参加者 数	1,809人	2,000人	1,700	85.0%	A	実態調査	
	② スポーツ少 年団・体育協会 活動の育成・支 援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	関係団体	4.0	A	72	スポーツ少年団各部への登録者 数及びクラブ数	236人	現状以上	251	106.4%	A	実態調査	
		119	登録者数及びクラブ数増加のための取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	関係団体	4.0	A			13部	現状以上	12	92.3%	A	実態調査	
										73	体育協会各部への登録者数及び クラブ数	316人	現状以上	280	88.6%	A	実態調査	
		③ 総合型地域 スポーツクラブの 育成	120	総合型スポーツクラブへの支援	4.0	A	スポーツイベントやレクリエーションの開催	関係団体	4.0	A	74	総合型地域スポーツクラブ会員数 【総合戦略】	195人	200人	95	48.7%	D	実態調査
		④ スポーツ指 導者の育成	121	スポーツ指導者の育成	4.0	A	スポーツ指導者の育成	関係団体	4.0	A								
	⑤ 体育施設の 適切な維持管理 と有効活用	122	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	関係団体	4.0	A	75	体育施設の利用者数(年間)	117,428人	119,000人	103,934	87.3%	A	実態調査	
123		体育施設の適切な維持・管理	4.0	A														

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 92.7%	総合評価: A
所見	人数等の関係で休部するクラブが増加している。各競技の部員増に繋がるような普及活動が必要である。					
所見(スポーツ関係団体)						
所見(委員会)	新型コロナウイルス感染症対策を行い、ジョギングフェスティバルやスポーツ大会を開催することができた。しかし、スポーツ協会各部の登録者が減少しており、登録者増加に向けた取り組みが必要である。					

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	① 郷土史学習講座の開催									76	社会教育講座における郷土史学習の受講者数(各回平均)	26人	30人	21	70.0%	B	実態調査
	② 学校教育における郷土教育の推進	124	「佐々町博士」の改訂・配布	4.0	A	「佐々町博士」の活用	小学校	4.0	A	77	「佐々町博士」の活用度	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	③ 文化財の保存と活用	125	文化財の適切な保存・保護	4.0	A												

大項目	中項目	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)				
			達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 85.0%	総合評価: A			
8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	所見										
	所見(学校)		(佐々小) 平成29年度より新しくなった「佐々町博士」を活用して学習ができている。児童にとって、分かりやすい内容で、効果的な学習を展開している。特に、児童の興味・関心を高める場面においては有効である。「佐々町博士」を窓口に、郷土教育をさらに広げ、郷土を愛する子どもたちを育成していきたい。 (口石小) 4年生の社会科で、三柱神社に奉納されている面を実際に借用して実物を見せたり、神楽の動画を見せたりして児童の興味関心を高めた。								
	所見(委員会)		(公民館) 教育委員会主催特別講座にて、歴史講座を開催し受講者の満足度は高く、郷土愛を育むことはできている。 (委員会) 小学校においては、「佐々町博士」の活用により、郷土教育の推進ができている。また、各種講座については、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが概ね計画どおり実施できた。								

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
9 地域文化の振興と創造	① 町民主体の文化芸術活動への支援	127	芸術・文化活動への支援	4.0	A					78	町民文化祭の参加者数	2,486人	2,500人	1,670	66.8%	C	実態調査
	② 子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	128	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	4.0	A	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の設定	学校等	4.0	A	79	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供数(年間)	2回	現状以上	2	100.0%	A	実態調査
	③ 文化会館の利用促進	129	施設利用の促進	4.0	A					80	文化会館利用者数(年間)	32,807人	32,900人	26,988	82.0%	A	実態調査

大項目	中項目	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)				
			達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 82.9%	総合評価: A			
9 地域文化の振興と創造	所見										
	所見(学校)		(佐々小) アルカス佐世保の芸術鑑賞体験教室に参加できた。コロナ禍前までは実施していた清峰高校吹奏楽部演奏・コーラス部合唱については、コロナ拡大により実施できなかった。 (口石小) 佐世保地域文化事業財団による「子どものための芸術鑑賞体験教室」に5年生が参加したり、青少年劇場に4・5年生が参加することで、子どもたちが芸術・文化にふれあう機会を設定することができた。 (佐々中) 学校での合唱コンクールや吹奏楽部の定期演奏会などを通して音楽や美術など文化的な学習を計画的に実施することができた。								
	所見(委員会・公民館)		(公民館) 町民文化祭参加者が年々減少傾向である。出品者増、若年化を図る為、魅力ある文化祭にするための工夫とアイデアが必要である。 (委員会) 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、各種イベントを開催することができた。施設利用者も3年度(15,731人)より増加している。								

令和4年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項目	評価	所見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	A	佐々町教育方針及び、第3期佐々町教育振興基本計画の確認並びに、佐々町学校評価ガイドラインの策定を行った。
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。		該当事案はなかった。
3	法令に基く認可に関すること。		該当事案はなかった。
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。		該当事案はなかった。
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	給食費の物価高騰分の補助及び佐々・口石小の転落防止柵設置工事、町民体育館外壁工事、地域交流センター1階空調設備設置工事等の29事業を行った。
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	佐々町小中学校給食物価高騰対策事業費補助金交付要綱の制定、佐々町小・中学校処務規則の改正、佐々町学校評価ガイドラインの改正、佐々町羽ばたけ若者人材育成奨学金支給要綱の制定、佐々町部活動検討委員会設置要綱の制定、佐々町立学校における医療的ケアの実施等に関するガイドラインの制定等を行った。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	A	本年度は小学校教科書の採択を県北地区採択協議会(平戸・松浦市、小値賀・佐々町で構成)で法令等に従い公正に行った。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。		該当事案はなかった。
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する機関の人事について承認した。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	2月の臨時教育委員会で、教職員の人事について承認した。
11	学校の通学区域の設定及び変更を行うこと。		該当事案はなかった。
12	法令及び条例に基く委員の委嘱及び解嘱を行うこと。	A	学校運営協議会委員、図書館協議会委員、佐々町社会教育委員等の委嘱を行った。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	町独自の研修計画は定めていないが、校長・教員については、毎月1回の定例研修会を開催している。また、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。また、町雇用の特別支援教育関係の支援員も含めた研修会を実施した。
14	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒児童の保健、安全、厚生及び福利に関する基本方針を定めること。		該当事案はなかった。
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。		該当事案はなかった。
16	文化財の指定に関すること。	A	狸山支石墓群から出土した鯉節型大珠の県文化財指定を県文化財保護審議会に申請した。